犬用ミルクを使用したアカカンガルーの人工哺育一例

○寺門璃南　坂上舞　伊藤咲良
（横浜市立よこはま動物園）

よこはま動物園で飼育するアカカンガルー(*Macropus rufus*)の母獣の育児嚢から落下した嚢児を人工哺育する機会を得た。哺乳の際に使用するミルクには有袋類用のものが市販されているが、今回は入手のしやすさや国内で成功例があることから犬用ミルクを使用して人工哺育を行った。しかし犬用ミルクでの人工哺育では乳糖不耐症による下痢や白内障の発症の可能性もあったため、ミルクの濃度に注意し,瞳孔を観察しながら人工哺育を行った。今回の個体では、哺乳開始時に使用したワンラックドッグミルクの規定濃度 16.67%よりも濃度の薄い 4.76%から開始し、徐々に濃度を上げた。大きく便状を崩すことなく体重も順調に増加し、白内障の発症もなく人工哺育を終了したため、その経過を報告する。